●「教える」とは、希望を語ること。「学ぶ」とは、誠実を胸に刻むこと。（ルイ・アラゴン）

連絡会ニュース

子どもと教育・くらしを守る広島県立学校教職員連絡会

No.1299　2024/08/22（Thu）

発行　広島高校連絡会事務局
Email renraku-kuko@mx6.tiki.ne.jp
HP　http:// ww6.tiki.ne.jp/~renraku-kuko/
携帯 090－1180－7644（村井義幸）
090－9738－8264（望月照巳）

平和のために、熱く活動する高校生たち

被爆者・岡久郁子さんのお話

１９７４年に第１回全国高校生平和集会が開かれてから、昨年は節目となる５０回目。今回は５１回目の集会となりました。この集会には、２０都道府県から中・高校生や大人約２００人が参加しました。

まず、被爆者の岡久郁子さんのお話を聞き、直接的な被爆だけでなく、二次被爆によって被害を受けた人もたくさんいるということを学びました。そして、「黒い雨」をあびた人たちが、多くの人たちと協力して裁判を闘い、勝訴したことも報告されました。高校生たちは、直接、被爆者の体験談を聞くことで、「戦争を２度と起こしてはならない」「核兵器を二度と使わせてはならない」という思いをより強く持ちました。

福井県は、平和ゼミ新結成！　沖縄から、いのちと暮らしが脅かされる実態の告発、埼玉・東京・愛知からも･･･

次に、各地の高校生の活動報告です。福井からは、新たに高校生平和セミナールを結成したことが報告されました。静岡は、ビキニ水爆被災事件から７０年の節目の年の３月に、焼津で全国高校生平和集会を開催したことを契機に、今後も平和の文化を発信していく決意を改めて表明しました。沖縄は、辺野古新基地建設問題や米軍基地問題について学び、命と暮らしと人権が脅かされている実態を訴えました。埼玉、東京、愛知でも、学習会やフィールドワークを通して、平和について学びを深めました。広島は、ボディマッピング（人生を１枚の絵に図像化するもの）を通した被爆者に寄り添う活動を報告しました。広島朝鮮初中高級学校は、差別のない共生社会の実現を訴えました。様々な問題について自分事として考え、学んでいくことの必要性を確認しました。

また、みんなで上演した「バラの祈り」を通して、久保山愛吉さんの「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」という言葉を改めて思い出しました。分科会では、差別の問題、原発、基地問題、ウクライナ戦争とガザ攻撃・核兵器廃絶の課題など話し合いました。

来年は被爆８０年の節目です。命ある限り核兵器の恐ろしさを伝え、核兵器廃絶を強く願っている被爆者の方々が続けてこられた努力と勇気を受け継ぎ、核兵器がこれから先も二度と使用されることがないように、全国で一丸となって「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める高校生署名」を引き続き取り組み、来年３月、外務省に届けることをみんなで確認しました。　（望月　照己）

余録

▼原水爆禁止世界大会への福山代表団は、例年通り貸し切りバスをチャーターして参加した▼往復の時間に自己紹介をするのが、慣例になっていて、私は、ノーベル賞を受賞した益川敏英さんの基礎科学研究の大切さの話を原水爆禁止運動の大切さを重ねた内容を述べた▼「基礎科学が何の役に立つのか」と問われれば「（今は）何の役にも立たない」と。しかし、この基礎科学によって、「未知の物質が発見される」そのバトンを受け継いで「どんな性質があるのか、どんな利用方法あるのか」が研究され、更にそのバトンを受けた研究が「製品としての実用化を目指す」という長いレースのスタートなのだ。だから、スタートを軽視してゴールだけ優遇しても決して、ゴールには到達できない。とそんな内容だった▼私たちの運動、世界大会も、いわば基礎研究のようなものであって、このバトンが繋がって「核兵器禁止条約」が生まれたと。